

化痰止咳平喘穴

痰を解消し、咳を鎮め、喘息を鎮めるツボ

肺気の下降を促進し、肺を浄化し、痰を解消し、咳や喘息を鎮めることを主な機能とするツボを、痰を解消し、化痰止咳平喘穴と呼びます。咳や喘息はしばしば痰を伴い、過剰な痰は必然的に咳や喘息を悪化させます。痰を解消するツボは咳や喘息を鎮める機能も持ち合わせていることが多く、また咳や喘息を鎮めるツボは痰を解消する効果も持つことが多いため、これらを一つの章にまとめています。

痰を解消し、咳を鎮め、喘息を鎮めるツボは、主に胸部と背部に位置し、肺経と腎経に属しています。肺は気と呼吸を司り、肺の気の下降を促進する機能を果たすことができます。腎臓は納気を司り、腎経の気を調整して、気の摂取と気を収めることで鎮静効果を達成することができます。

胸と背中の中のツボは肺に近く、肺の気と内部でつながっているため、肺の気の下降を促進し、痰を解消し、咳を鎮め、喘息を鎮める機能があります。一部のツボには、胸を広げて気を調整し、肺を浄化して喉に利益をもたらす、痰を解消してつまりを散逸させる効果もあります。

化痰止咳平喘穴は、主に痰過多、咳、喘息に使用されます。これらのツボは、咽頭痛、鼻血、鼻詰まり、甲状腺腫、てんかんなどにも併用できます。

肺に侵入する外因性病原体や内因性損傷は、咳、痰の過剰分泌、喘息を引き起こす可能性があります。そのため、ツボの特性に基づいて選択するだけでなく、原因と症候群に応じて適切な組み合わせを行う必要があります。

例えば、表証が併発している場合は、解表穴を用います。

内熱が併発している場合は、清熱穴で内邪を放出します。

陽虚が併発している場合は、温補穴を用います。

陰虚が併発している場合は、陰を補うツボを用います。

痰と湿が重度の場合は、脾を補い、湿を放出するツボを用います。

治療においては、補法と瀉法も症候群に応じて組み合わせる必要があります。

邪が過剰(実)である場合は、肺機能を促進し痰を取り除くために瀉法を用いた鍼治療を行います。

虚証の場合は、肺の気を補うために補法を用いた鍼治療や灸、シップ法(薬)を使用します。

これらのツボは主に胸部と背部に位置しています。肺を傷つけないように、鍼は水平または斜めに刺入する必要があります。